

事業報告

第 1 4 期

〔 自 平成 2 5 年 4 月 1 日 〕
〔 至 平成 2 6 年 3 月 3 1 日 〕

仙台空港鉄道株式会社

第14期 事業報告

I 事業の概況

1 事業の経過及び成果

(1) 鉄道事業

鉄道事業では、安全、安定輸送の確保とご利用されるお客さまの満足度向上を基に、仙台空港アクセス線の輸送改善や沿線イベントへの対応など利用促進に向けた取り組みを着実に展開し、お客さま及び収入の確保に努めました。

安全面では、当社は会社発足以来、一貫して「安全・安心」をトップブランドとして認めていただける会社を目指してきました。平成25年度も安全を第一に、お客さまが安心してご利用いただける鉄道を目標に掲げ、「安全管理規程」に基づき社長をトップとした安全管理体制を構築し、社員一人ひとりの責務・責任を明確にするとともに、それぞれの役割を確実に遂行する取り組みを推進しました。特に、社内に設置した「安全委員会」を定期的開催し、当社及び他会社で発生した事象や他山の石をもとに、安全に関する事項を重点的に検討することにより、運転事故等の未然防止、再発防止に取り組みました。また、多客輸送期には経営トップによる安全総点検を実施し、本社と現業機関との連携強化に努めるとともに、新規運転士養成や運輸指令員養成等の社員教育及び異常時取扱訓練や定例訓練等を通して、社員一人ひとりの技術・技量の向上を図りました。さらに、東日本大震災を教訓として、地震等の異常時にお客さまの救急救命を最優先に進めるため、10月に総合異常時取扱訓練により仙台空港トンネル内からのお客さまの避難・誘導訓練を実施したほか、4月と12月に消防機関の協力を得て救急救命講習を実施しました。

サービス面では、鉄道利用の拡大に向け、お客さまの満足度向上をめざした取り組みを推進しました。社員一人ひとりが常にお客さまにご満足いただける接客を心がけるとともに、お客さまからいただくさまざまなご意見やご要望は「お客さまメモ」として活用し、改善策を検討、実施することにより、お客さまの満足度向上に努めました。また、接遇サービス向上に関する東北鉄道協会主催の研修やJR東日本・仙台支社サービスフォーラム等への参加

を通して、社員のサービスに関する資質向上に取り組みました。

輸送面では、3月に仙台空港アクセス線のダイヤ改正を実施しました。今回のダイヤ改正では、お客さまのご利用の少ない昼間帯の列車を、各航空各社の最終便が到着する時間帯にシフトすることにより利便性の向上を図ったほか、仙台空港駅での乗り継ぎを考慮し、発車番線の変更を行いました。また、木下大サーカスや「なとり夏祭り」等の沿線のイベント開催時には、お客さまのご利用状況に合わせた列車の増結や臨時列車の運転を行いました。さらに、多客輸送期や台風、雪害等で輸送混乱のおそれがある場合には、社長を本部長とする輸送対策本部を設置し、全社を挙げて対処しました。

これらの取り組みにより、平成25年度は台風や雪害により輸送障害が生じたものの、当社管内での運転事故等の発生はなく、一個列車平均遅延時分0.46分と概ね順調な運行を確保することができました。

利用促進面では、ICカードの相互利用の拡大を図るため、平成25年3月から交通系ICカードの全国相互利用サービスを開始しました。これにより、当社における平成25年度のICカードご利用のお客さまの割合は約54%、ご利用人員は1,681千人で対前年136%となりました。

仙台市内や山寺、松島等の観光地を自由に散策していただく周遊企画切符「仙台まるごとパス」の当社における発売実績は3,313枚で、全発売枚数の約25%のシェアを占めましたが、東日本大震災前の発売実績には至りませんでした。

旅行業商品を扱う大手エージェント16社と船車券契約（乗車券発売契約）を締結し、エージェントが発売する旅行業商品に当社線を組み入れていただくことにより、ご利用されるお客さまの乗り継ぎの円滑化と利便性の向上を図ってきました。平成25年度の船車券契約発売実績は、11,893枚、4,865千円でした。

さらに、仙台空港アクセス線を利用されるお客さま等を対象にさまざまなイベントを実施し、利用促進に努めました。主なものとしては、「サッとくんと笑顔でお出迎え隊」活動や、「トレインお絵かきコンクール」をイオンモール名取と共同で開催するとともに、ラッピング列車の運行を行いました。特に、今回は宮城県全域の小学生以下を対象に“夢の電車”のイラスト募集を行い、多くのみなさまからご応募いただきました。そのほかにも「鉄道フェスティバル in 東北」や鉄道フェスティバル「みんなつ館」等の関係機関のイベントや地元で開催されるお祭り等にも積極的に参加し、仙台空港アク

セス線を広くPRすることで、利用促進に取り組みました。

(2) その他事業の展開

鉄道事業以外では、駅や車内における広告事業及び駅構内事業のほか、鉄道グッズについては、当社内各駅、仙台空港ターミナル売店、宮城県アンテナショップ「みやぎふるさとプラザ」、宮城県庁舎共済組合売店での販売に加え、鉄道フェスティバル等において積極的な販売活動を展開しました。また、東日本大震災時に仙台空港トンネル内に敷設してあったレールを自社内で加工、関係個所の協力を得て「被災レール」として販売しました。さらに、イオンモール名取駐車場で開催された木下大サーカスに対応して、杜せきのした駅でサーカスの前売り券の販売を行い、1,347枚を売り上げました。

(3) まとめ

このような取り組みの結果、当期1年間の営業実績は、ご利用人員320万1千人、一日平均8,772人となり、開業以来最も多くのお客さまにご利用いただきました。

また、当期の営業収益は、870,203千円、営業損失は、195,314千円、経常損失は、266,928千円となりましたが、特別損益の部における過年度損益修正益等の受入により、最終的な当期純損失は、210,693千円となりました。

2 今後の見通しと対処すべき課題

当社は、開業から7年が経過し、仙台空港をご利用されるお客さまの増加や宮城県教育・福祉複合施設「まなウェルみやぎ」の開設、沿線人口の増加など当社の経営にとっては明るい兆しが現れつつあるものの、今後の社会、経済情勢等の変化によっては、鉄道をご利用されるお客さまの動向が大きく影響されることも想定されます。こうした状況のなか、公共交通を担う鉄道会社として、より安全性の高い鉄道輸送を確保するため、経営トップをはじめ社員一人ひとりが自ら考え自ら行動する取り組みを実践し、会社発足以来取り組んできた「安全・安心」というトップブランドに、より一層磨きをかけていきます。さらに、「安全・安心」を基本に各駅におけるお客さまのご利用状況等を踏まえた輸送改善に取り組み、さらなる利便性の向上と利用拡大に努めていくほか、パーク&ライドの拡大、各種イベント参加等による利用促進に向けた取り組みを引き続き展開していきます。

また、今後の当社の核となる社員を育成するため、社内における各種教

育・訓練の充実や社外における研修等を積極的に活用することにより、鉄道固有の知識・技能の修得に加え、社会人としての幅広い視野を持った人材の育成を推進していきます。

これらの取り組みを着実に実践するとともに、「仙台空港鉄道株式会社支援プラン～行動計画～」に基づき全社員が一丸となって業務に取り組んでいきます。

各関係機関の皆さまにおかれましては、当社の経営につきまして何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

3 設備投資の状況

当期中に実施した主な設備投資額は以下のとおりであります。

消費税施策対応に係る自動改札機の改修等（消費税除く） 32,600千円

4 営業成績及び財産の状況推移

(単位：千円)

区 分	平成 22 年度 (第 11 期)	平成 23 年度 (第 12 期)	平成 24 年度 (第 13 期)	平成 25 年度 (第 14 期) (当 期)
営 業 収 益	636,416	415,839	714,805	870,203
経 常 損 益	△951,265	△984,064	△386,985	△266,928
当 期 純 損 益	△2,666,836	11,263	△368,878	△210,693
1 株 当 たり 当 期 純 損 益 (円)	△18,706.76	79.00	△2,587.53	△1,477.93
総 資 産	19,084,608	9,415,716	8,890,219	8,790,920

II 会社の概況（平成26年3月31日現在）

1 主要な事業内容

鉄道事業法による第一種鉄道事業及びこれに付帯関連する事業

2 主要な営業所

本 社 名取市杜せきのした5丁目34番地

3 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 150,780株
(2) 発行済株式の総数（普通株式） 142,560株（自己株式20株を除く）
(3) 株主数 114名
(4) 大株主

株 主 名	持 株 数(株)	議決権比率(%)
宮城県	75,380	52.87
仙台市	22,800	15.99
名取市	8,620	6.05
東日本旅客鉄道株式会社	7,180	5.04
公益財団法人宮城県市町村振興協会	6,000	4.21
岩沼市	4,300	3.02
東北電力株式会社	3,000	2.10
株式会社七十七銀行	2,000	1.40
仙台空港ビル株式会社	2,000	1.40
山形県	1,000	0.70

4 使用人の状況

使用人数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
51名	3名	39.11歳	4.5年

上記のうち、20名については宮城県及び東日本旅客鉄道(株)等からの出向者であります。また、31名については社員及び嘱託社員等であります。

5 借入金

借入先	借入金残高	借入先が所有する当社の株式	
		持株数	議決権比率
宮城県	千円 7,859,000	株 75,380	% 52.87
合計	7,859,000	75,380	52.87

6 取締役及び監査役

(1) 取締役及び監査役の氏名等 (平成26年3月31日現在)

会社の地位	氏名	主な職業または担当
代表取締役社長	小川竹男	
代表取締役専務	渋谷浩	
専務取締役	松本隆	
取締役	三浦秀一	宮城県副知事
取締役	稲葉信義	仙台市副市長
取締役	佐々木一十郎	名取市長
取締役	井口経明	岩沼市長
取締役	佐々木茂	仙台CATV(株)代表取締役社長
取締役	氏家照彦	(株)七十七銀行代表取締役頭取
取締役	笠松伸一	東北電力(株)執行役員宮城支店長
常勤監査役	小笠原廣	
※監査役	鈴木隆	(株)仙台銀行代表取締役頭取
監査役	間庭洋	仙台商工会議所専務理事
監査役	紺野純一	仙台ターミナルビル(株)専務取締役ホテル事業本部長

注1 ※印は、平成25年6月20日開催の第13回定時株主総会において、新たに選任された監査役であります。

2 監査役4名は、会社法第335条第3項に定める社外監査役であります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	支給人員	報酬等の額
取 締 役	3名	17,880千円
監 査 役 (うち社外監査役)	1名 (1名)	1,200千円 (1,200千円)
合 計	4名	19,080千円

7 会計監査人の名称

公認会計士 安齋勇雄事務所

公認会計士 安 齋 勇 雄